

令和7年度 学校自己評価最終報告書

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	成果及び課題、改善点など	評価
1	授業実践力の向上 (教科指導の充実)	G I G A研修とともに授業検討や実践、整理会などを通してICTを効果的に活用した授業作りに取り組んでいく。また、実践報告書を各教員作成し授業実践力の向上につなげる。	教務課 (研究)	授業の目標や目指す児童生徒の姿に焦点を当てたICTの活用が「できている」「ややできている」と答えた教員の割合が、 A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	ICT機器を活用した授業実践や成果課題を明らかにできている か4段階評価で「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた教員の割合が 100%であった。	今年度も昨年度に引き続き、毎月のG I G A研修の実施と並行して学校研究にも取り組んだ。前期はICTの活用の仕方や授業づくりについて全体で研修を進め、後期はICTを活用した授業作りに重点を置いて研修を行った。各教員の担当授業で実践し、実践報告書を通して成果と課題を整理・共有することができた。今後も、授業のねらいや目的に沿ったICTの使い方や児童生徒が「分かった」と感じられる使い方ができることを目指していく。	A
2	地域社会との連携	地域の方々や交流先と一緒に活動するごとに、取組の目的についてのアンケートを配布し、評価してもらおうと同時に、要望も聞き、次の活動につなげていく。	全学部	交流相手からのすべてのアンケートにより、活動が「とても満足した」「満足した」と答えた割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	交流相手からのアンケートは、84名から回答が得られ、活動が「とても満足した」「満足した」と答えた割合は、 100%であった。	今年度は、地域の方々や居住地交流校、高等学校、保育園などのべ11回、交流を行うことができた。こちらから出向いで交流をすることが多く、相手側の負担は少なかったのではないかなと思われる。交流の内容では、1回目は「なぞなぞ」などの発表をしたが、アンケートからの希望により一緒に運動をしたり、遊んだりする内容になったこともあった。この交流は珠洲分校から依頼することが多いが、相手側が好意的に受け入れてくれていると思われる。今後も、新たな交流先を探したり、いろいろな方と交流ができるようにしたり工夫していきたい。	A
3	安心・安全な学校づくり	年2回の避難訓練（火災、地震・津波）と分校版シェイクアウトを引き続き実施する。分校版シェイクアウトでは告知なく実施し、児童生徒が適切な行動をとれることを目指す。	生活支援課（生徒指導）	避難動作を自主的に行い、教師の指示を聞いて落ち着いて行動できた児童生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	県下一斉シェイクアウトと分校版シェイクアウトの2度の避難訓練を実施し、児童生徒の様子を教員がチェックシートに記入した。その中で、「静かに落ち着いて避難行動がとれる」と回答した割合が、 91%であった。	避難動作を一人で行える児童・生徒の割合は、前期評価では83%であったが、「分校版シェイクアウト」を繰り返し実施した結果、数値が向上し91%となった。それ以外の児童・生徒で「声かけや簡単な支援を受けてできる」生徒の数値は同様であった。 今後は、「簡単な支援を受けて」できる児童・生徒に対しても、訓練の継続をしていくことで、さらに避難動作の向上を目指し、支援を受けながら児童・生徒が命を守るような行動が身につくようにしていきたい。	A

		新校舎での適切な避難方法や避難場所の過ごし方について防災教育の時間を設け、日頃から児童生徒が取り組めることがあるか考える授業を行う。	各学部の授業担当者	防災教育に関する授業を受け理解できた児童生徒の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	小中高のそれぞれの防災担当者への聞き取りにおいて、避難訓練後の授業だけでなく、教科や各教科を合わせた授業で児童生徒が取り組めることがあるか考える授業を行えたと回答した教員の割合が、 100%であった。	前期では、適切な避難方法や避難所での過ごし方がわかると回答した生徒の割合が100%であったため、後期では、生徒目線の評価に加えて、教員側が授業実践できたかどうかのアンケートを行うことにした。各学部で避難訓練のあとの防災教育で災害によって引き起こされる重大事態と日ごろからの備えの重要性について考えたり、災害が起きた直後の行動や心を落ち着かせる方法について学ぶ機会を設けたりしたことで児童生徒の防災意識が高まったと思われる。今後も、訓練や授業等で実践しながら児童生徒が、日頃からの備えの重要性や災害時の行動について理解できるようにしたい。	A
		教育ウィークに合わせて座談会を開き、震災直後、震災後の状況などについて話し合いこれからの対応について参考にしてもらう。	総務課	座談会の内容が、満足いくものであったという割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	座談会の内容が、満足したと答えた方の割合が100%であった。	当日は5家族の参加があり、大学のカウンセラーの先生を講師として招き、震災後の状況や日常の子育てのことについて様々なことを聞いていただいた。それぞれの家庭のケースについて話し、アドバイスをもらいながら今後について考える判断材料となった。	A